

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数2件、前月143件から激減しています。天草からの2件の報告のみです。

小児科定点

(全体傾向) 報告総数7,862件(前月比1.2、前年比2.0)でした。報告数は、前月比・前年同月比の変動は手足口病とヘルパンギーナの増加に伴うものです。また、この2疾患以外は小児科定点で増加したものはありません。特に手足口病は、前年比7.2と大きく増加しています。季節性流行の高い疾患ではありますが、増加が目立ちました。一方でインフルエンザの報告数は143から2件まで激減し今年最少の報告数でした。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告はありませんでした。
2. 咽頭結膜熱: 報告数65件(前月比0.7、前年比1.0)です。菊池(定点あたり5.5)に多いようですが、御船・人吉をのぞき県下から報告があります。1~2歳を中心として、幅広く報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数167件(前月比0.5、前年比1.0)です。天草24件(定点あたり6.0)・人吉15件(定点あたり5.0)・熊本77件(同4.8)が多いようです。4~6歳を中心として報告があります。
4. 感染性胃腸炎: 報告数711件(前月比0.5、前年比0.7)と例年並みの推移で減少傾向にあります。全地域から二桁以上の報告があります。山鹿76件(定点あたり38.0)・菊池108件(同27.0)・人吉81件(同27.0)が多いようです。ほぼ全年齢層から二桁、1歳は三桁(119件)の報告があります。
5. 水痘: 報告数225件(前月比0.4、前年比0.9)と、報告が減少しました。人吉36件(定点あたり12.0)・宇城26件(定点あたり8.7)からの報告が多いようです。1~4歳を中心とした流行です。減少に転じましたが、予防可能な疾患であり、この年齢で今後保育施設等への就園が予定されている場合には予防接種を提示した方が良いと考えられます。
6. 手足口病: 報告数4,539件(前月比1.8、前年比7.2)と、昨年をさらに上回る大流行です。ただ季節的には例年どおりの推移と考えられます。特に多いのは、昨年同様、菊池755件(定点あたり188.8)が最も多いようです。以下熊本1,902件(同118.9)・宇城342件(同114.0)と続きますが、御船37件(同12.3)・阿蘇3件(同1.5)以外は、県下(水俣をのぞく)から三桁の報告があります。1~3歳を中心としていますが他の年齢でも胃腸炎を越す報告があります。原因ウイルスとして、当初はエンテロウイルス71型が分離されていましたが、コクサッキーA16に変化したようです。
7. 伝染性紅斑: 報告数48件(前月比0.3、前年比0.2)です。数字の上では、前月・前年比ともに減少していますが、5月までの減少傾向が一旦6月に増加に転じていますので、まだ注意は必要でしょう。山鹿7件(定点あたり3.5)・菊池件10(同2.5)と県北からの報告が多いようです。3~4歳を中心として流行しています。

8. 突発性発しん： 報告数197件(前月比0. 8、前年比1. 0)と、夏期にやや増加するという例年同様の動きにて推移しています。山鹿2件・阿蘇1件と御船0件以外は、県下から二桁の報告でした。
9. 百日咳： 報告は1件(前月比0. 5、前年比0. 1)でした。今年に入り減少傾向が認められます。熊本からの6ヶ月未満1件のみでした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数1, 341件(前月比2. 1、前年比1. 7)で、推移としては例年同様ですが、報告数は昨年の2倍です。有明268件(定点あたり53・6)・菊池178件(同44. 5)・天草172件(同43. 0)が特に多いようです。阿蘇・御船以外は定点あたり二桁の報告です。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数353件(前月比0. 8、前年比1. 0)と、H22年の5月以降ほぼ300～500の報告が続いています。宇城48件(定点当たり16. 0)、山鹿28件(同14. 0)・菊池51件(同12. 8)が多いのですが、山鹿・菊池地区は他地区に比して定点あたりの報告数の多い状況が続いています。年齢は、2～5歳を中心として幅広く分布しています。増加後の感染対策が不十分であると考えられ、また流行地区の偏向もあるようですので、予防接種勧奨などの積極的対策の早急な実施が必要と考えられます。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数2件(前月比2. 0、前年同月1. 0) 熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎： 報告数51件(前月比0. 9、前年同月1. 1)と増加はありません。地区別では熊本45件、菊池2件、有明4件の報告です。年齢別では20～49歳で61%を占めていますが50～69歳にも多目に発症しています。

## STD定点

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 50件(前月比1. 0、前年比1. 4)で、前月比は同数、前年比は増加しています。男女別は、女性40件、男性10件で、女性に多く見られました。年齢別は、男性は15～54歳に幅広く見られ、女性は15～44歳に見られますが、15～34歳に多く見られます。地域別は、熊本が38件と多く、次いで御船4件、宇城3件、八代2件、山鹿、菊池、有明各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症： 報告数16件(前月比0. 9、前年比1. 1)でした。前月は減少し、前年は増加しています。男女別は、女性が13件、男性3件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は15～44歳に見られ、女性は15～70歳以上に幅広く見られます。地域別は、熊本が10件、八代4件、御船、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数6件(前月比1. 2、前年比1. 0)で、前月比は増加し、前年比は同数でした。男女別は、女5件、男性1件でした。年齢別は、男性は20～24歳の1件で、女性は15～29歳に見られます。地域別は、熊本4件、御船、八代各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数16件(前月比1. 5、前年比1. 1)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性が11件、女性5件でした。年齢別は、男性は15～39歳に見られ、女性は15～24歳に見られます。地域別は、熊本が9件、宇城5件、菊池、有明各1件でした。

## 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:  
報告数 61 件 (前月比 0.9、前年同月比 0.8) でした。年齢は、38 件 (62%) は 70 歳以上でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:  
報告は 1 件 (前月比 0.5、前年同月比 0.2) でした。場所は有明保健所 1 件でした。年齢は 70 歳以上が 1 件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:  
報告はありませんでした。
4. 多剤耐性アシネトバクター感染症:  
報告はありませんでした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告はありませんでした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告は 3 件 (前月比 0.6、前年同月比 0.8) でした。場所は熊本保健所 3 件でした。年齢は、5~9 歳 2 件、10~14 歳 1 件でした。
3. マイコプラズマ肺炎:  
報告は 7 件 (前月比 0.6、前年同月比 1.8) でした。場所は熊本保健所 4 件、有明保健所 3 件でした。年齢は、1~4 歳 2 件、5~9 歳 4 件、10~14 歳 1 件でした。
4. クラミジア肺炎: 報告はありませんでした。

## 届け出対象感染症

- |                |  |
|----------------|--|
| 1 類感染症:        | 報告はありませんでした。                                       |
| 2 類感染症:        | 結核: 30 件   |
| 3 類感染症:        | 腸管出血性大腸菌感染症: 11 件<br>(O157: 9 件、O26: 1 件、O91: 1 件) |
| 4 類感染症:        | レジオネラ症: 2 件  |
| 5 類感染症 (全数把握): | アメーバ赤痢: 1 件<br>後天性免疫不全症候群: 1 件<br>梅毒: 1 件          |